

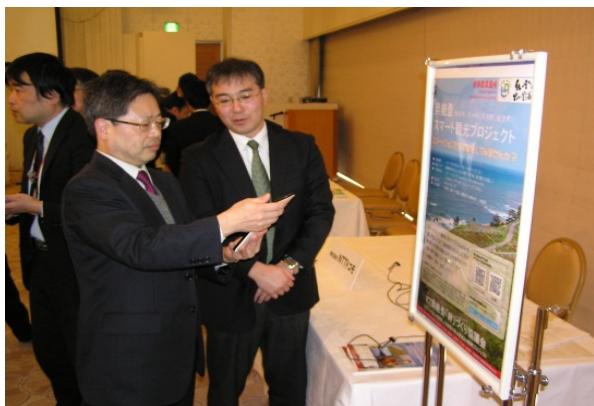
3月4日から『奥能登スマート観光プロジェクト』が始動！ ～ 「北陸ICT観光推進フォーラム2013」を開催し、実験の概要を公表～



齊藤局長 主催者挨拶



パネルディスカッション



奥能登スマート観光プロジェクトの実機デモ

総務省北陸総合通信局（局長：齊藤一雅）は、北陸情報通信協議会（会長：永原功 北陸経済連合会会長）及びICT奥能登「絆」づくり協議会（会長：泉谷満寿裕 珠洲市長）との共催により、「北陸ICT観光推進フォーラム2013」を2月26日に金沢市内で開催し、自治体・ICT関係者など、約170名の参加がありました。

本フォーラムでは、観光分野におけるICT利活用の一層の推進を図ることを目的に、ICTを活用した観光振興の事例紹介と、「観光の高付加価値化とブランド化の推進」をテーマとするパネルディスカッションを行いました。

冒頭、齊藤一雅北陸総合通信局長が「2年後の新幹線開業に向けて、ICTを活用して北陸の観光を元気にしたい」と挨拶しました。

事例紹介では、米田剛NPO法人地域情報化モデル研究会代表理事から、「地域をつなぐ青森県の観光クラウド事例」、矢野久山梨県観光振興課主査から、「富士の国やまなし観光コンシェルジュ事業」について、講演をいただきました。

その後、大藪多可志金沢星稜大学経済学部教授をコーディネーターに、パネリストとして、事例紹介のお二人のほか、寺前秀一加賀市長、饗庭達也石川県情報システム工業会会長、齊藤一雅北陸総合通信局長によるパネルディスカッションを行い、その中で、齊藤局長が、ICT奥能登「絆」づくり協議会が実施主体となる『奥能登スマート観光プロジェクト』を3月4日から開始する旨を発表しました。

このプロジェクト【[別添資料](#)を参照】は、スマートフォンを使って、多言語（日本語、英語、中国語、韓国語）及びAR（拡張現実）機能に対応した観光情報（奥能登を中心とする石川県内の493箇所の情報）を提供し、観光面での有効性等を分析するためのモデル実験として行うもので、8月31日まで実施する予定です。